

【部会・分科会活動報告】 2017年3,4月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) <u>芽胞菌研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 論文作成 缶詰時報受理 (缶詰時報 5月号掲載予定) 「甜菜糖の耐熱性細菌芽胞の汚染評価と紫外線殺菌による不活化」 技術レポート (缶詰時報 6, 7月号掲載予定) 「高温性嫌気性有芽胞細菌の統一検査手法の開発」 (全2回) 耐熱性好酸性菌のまとめについては進捗なし。 <p>(2) <u>MALDI-TOF MS 研究分科会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> NITE との第一回会議を 3/6 に実施し、カビ同定のスタンダードプロトコルの構築を目指すことで合意。ILSI からカビの菌株リストを提供。第二回会議 (6/13 を予定) <p>(3) <u>チルド勉強会</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 腐敗に関わる低温性芽胞菌についての勉強会 (5/30 を予定) <p>(4) <u>飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国清涼飲料工業会 広報部との活動を開始した。 <p>2. 2017年第2回部会全体会議と勉強会の予定</p> <p>日時：5月19日 (金) 13:00-17:15</p> <p>場所：花王(株)すみだ事業場 (東京)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分科会からの活動報告 公開シンポジウムについて審議、共有化 等 勉強会 HACCPについて <p>講師：食品産業センター 宮本様、月刊HACCP 立石様</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設見学 (花王ミュージアム等)
	食品リスク研究部会	<p>1. 部会</p> <p>日時：2017年3月30日 13:30-15:00</p> <p>場所：ILSI 事務局</p> <p>参加者：15名</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月23日に開催された国立医薬品食品衛生研究所、小島肇先生との「ILSI 新寄付講座および ILSI での食品安全関係の取組みテーマに関する議論」について、ILSI 事務局より報告があった。 ILSI Japan 食品リスク研究部会の規約が部会長より提案され、承認された。 2017年度部会長及び副部会長が承認された。 <p>2. 勉強会</p> <p>日時：2017年3月30日 15:00-17:00</p> <p>場所：ILSI 事務局</p> <p>参加者：17名 (演者除く)</p> <p>講演者：国立医薬品食品衛生研究所 梅村隆志先生</p> <p>演題：「第 82,83 回 JECFA 評価にみる食品安全の国際評価動向」</p>
	香料研究部会	
バイ オ テ ク ノ		<p>1. 2017年度 第2回目の会議を4月18日に開催</p> <p>(1) 4月からの新幹事の紹介。</p> <p>(2) ERA プロジェクト調査報告 第31号の勉強会。</p> <ul style="list-style-type: none"> 10報の論文をレビューし、意見交換を行った。 <p>(3) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ILSI HESI の要請を受け、今後本データベースを関係各所にどのように普及するかについて議論を行った。

ロジック研究会		<ul style="list-style-type: none"> 追加のコミュニケーション用資料を待って、次回の会議で再度話し合うこととした。 (4) GM 微生物食品について <ul style="list-style-type: none"> GM 微生物食品の安全性評価資料作成のポイントをまとめた文書を ILSI バイオテクノロジー研究会のウェブサイトに掲載することについて合意した。 (5) GM 作物について <ul style="list-style-type: none"> ISBGMO 会議が 6 月上旬にメキシコにて開催されることの報告が行われた。筑波大学教授 大澤先生など 5 名の専門家に参加を依頼。研究会からは中井氏、松下氏が参加予定。9 月から 10 月に報告会を開催予定。 昨年 11 月 14 日に開催された ERA 勉強会の内容をまとめた論文準備の進捗が報告された。今後、専門家のレビューを受け 6 月末に投稿予定。 7 月 10 日に、SIP 次世代農林水産業創造技術コンソーシアムとの共催で開催を予定しているゲノム編集ワークショップの準備状況について報告が行われた。 <p>2. ERA プロジェクト調査報告 第 31 号を 4 月に発行。</p>
栄養健康研究会	栄養研究部会	<p>2017 年度 第 2 回目の会議開催 (4 月 19 日)</p> <p>1. 部会の活動方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> 2020 年の東京オリンピック開催を視野に入れ、栄養研究部会は「運動と栄養」をキーワードとして、活動する。 『第 9 回ライフサイエンスシンポジウム』の開催は 2018 年 9 月を目標とする。 2019 年 9 月開催の第 8 回「栄養とエイジング」国際会議のテーマとして、「日本の食事」(健康な食事研究会)が予定されており、そこに「運動と栄養」(栄養研究部会)の成果(第 9 回ライフサイエンスシンポジウム)を取り入れる方向で考える。 <p>2. 今後の方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動あるいは栄養の専門家(アカデミアの先生)にアドバイスをいただいた上で、シンポジウムのプログラム案を立案・作成していく。
	GR プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 第 3 回多施設試験 (10 施設) の追試を 3 施設で実施
	茶類研究部会・茶情報分科会	<p>2017 年 3 月 22 日会議開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 茶類研究部会新規テーマ: 次期テーマを紅茶成分のテアフラビン等有効成分に関して情報収集を進める。 Eur. J. Clin. Nut. に発表した論文のを、各社で手分けして日本語化を開始。 EFSA 安全性指針への情報提供について→レビュー内容を各社で確認後、EFSA に提出した。
食品機能性研究会		
	寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」	<ul style="list-style-type: none"> 第Ⅲ期寄付講座 (2013 年 12 月開始、5 年間) 研究進行中。
健康な食事研究会		<p>第 1 回の研究会を下記の通り開催した。</p> <p>日時: 平成 29 年 4 月 27 日 (木) 10:00-12:00</p> <p>場所: 国際生命科学研究機構会議室</p> <p>出席者: アカデミア: 7 名、インダストリー: 15 社、事務局/タスクフォース: 4 名</p> <p>研究会内容:</p> <p>ILSI Japan 安川理事長から「研究会設立の背景と目的」「運営組</p>

	<p>織と活動内容」について説明</p> <p><u>背景と目的</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康な食事」の対象は日本人を念頭に、人類共通のことを目指し、毎年 ILSI の総会で世界に向けて発表。 ・「健康な食事」は大きいテーマだが、絞るか絞らないかは議論を待つ。 ・この研究会は産業（企業）に対し、すぐに成果が上がるものではないが、一方では活動にファンディングも必要。 <p><u>組織と活動内容</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの WG 活動内容は WG 内での議論によって決定していく。3つの WG は、「健康な食事とは WG」（リーダー；佐々木敏先生）、「実態把握 WG」（リーダー；坂田隆先生）、「社会実装 WG」（リーダー；桑田有先生）。 ・各 WG は独立した活動であるが、相互に関連しており、全体ミーティングで調整しながら進める。 ・WG とは別にアドバイザリーボードと事務局を設置する。 <p><u>その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・農水省のプロジェクト（京大中心の）について、クローズドセミナーを企画する。（中村先生に仲介を依頼） ・JST への申請を紹介、5 月に申請結果が判明。 <p>次回開催予定：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5 月 17 日を目途に、各々の WG への参加意向を事務局に連絡 ・5 月中に各 WG グループミーティングを開催 ・6 月、第 2 回研究会の実施
C H P	<p>Project PAN (Physical Activity and Nutrition)</p> <p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>3/7, 14 いきいきランチ教室（八広地域プラザ，墨田区）</p> <p>3/14・16 テイクテンリーダー養成講座（島根県吉賀町）</p> <p>3/15 「テイクテンきよらプロジェクト」第1 回交流会（吉賀町福祉センター，島根県）</p>
	<p>Project SWAN (Safe Water and Nutrition)</p> <p>3 月 ベトナム農村地域における母親の離乳食作り啓発支援事業（以下 AIN 支援事業）：栄養カウンセリングや栄養・食品衛生に関する情報提供を継続的に実施（タイグエン省・バクザン省，ベトナム）</p> <p>3 月 安全な水・栄養・食品衛生教育及び情報提供を継続的に実施（ハナム省・ニンビン省，ベトナム）</p> <p>4/14 AIN 支援事業：事業完了ワークショップ（タイグエン省保健局主催，対象村・区・省関係者 18 名参加，タイグエン省，ベトナム）</p>
	<p>Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)</p> <p>特になし</p>
	<p>CHP 全体</p> <p>特になし</p>
国際協力委員会	<p>1. アジア各国における栄養表示・健康強調表示のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該活動の協同リーダーである ILSI 東南アジア支部の Paulin Chan 氏からアジア各支部にドラフト作成を依頼し、最新の情報をまとめる。まとめたものは、今後は各支部の責任において支部ごとで更新することを考えているが、BeSeTo 会議等での報告も考えられる。

	<p>2. 「BeSeTo 会議」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月31日、9月1日に都市センターホテル（東京）で開催予定。シンポジウムは「食物アレルギー」をテーマにする。 <p>3. CODEX、FAO/WHO 等動向に関する情報収集/共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オーガニック、アクアカルチャー、FOP ラベル等の動向を確認しつつ、今後も継続的に情報共有するかは要検討。 <p>4. 農林水産省委託事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当委員会として、本年度の受託を目指して準備していく。
情報委員会	<p>1. 委員会開催 2 回 (3, 4 月)</p> <p>2. ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常業務としての更新 (随時) <p>3. 「栄養学レビュー」誌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 25 巻 3 号 (通巻 96 号) : 監修、編集 (5/10 刊行予定) ・ 25 巻 4 号 (通巻 97 号) : 翻訳、監修、編集 (8/10 刊行予定)
編集部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「イルシー」誌 130 号、原稿査読・編集

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 2 回理事会が平成 29 年 4 月 21 日 (金) 15 時より開催された。</p> <p>1. 決議事項</p> <p>議案 古野純典氏の理事退任承認 満場一致で承認された。</p> <p>2. 討議事項</p> <p>今後の活動方針</p> <p>① 研究会活動の活性化</p> <p>ア) 健康な食事研究会状況報告 設立シンポジウム開催後の活動について事務局長より報告。 外食産業記者会への説明、入会の呼びかけ、参加企業名、JST 未来社会創造事業への申請、第 1 回研究会開催予定、組織案。</p> <p>イ) 発展型寄付講座創設に向けて - タスクフォースによる方向付けの中間報告 安全性に関わるテーマの具体化：産業界からの要望ヒアリング、識者との動物実験代替に関する議論 中間報告：①食品安全性の新たなプラットフォーム構築、②健康リスクの回避のためのマーカー開発 以上について報告があり、その後、理事等の中で経緯の説明や討議がされた。</p> <p>ウ) 研究会・研究部会への活動支援 予算策定に合わせ、各会より活動計画とその概算要求を提出いただき、それを理事会で審査、来年の支給額を決定する。</p> <p>② 公共性明確化・ガバナンス強化</p> <p>ア) 本部理事会の役割の明確化</p>
-----	---

	<p>本部理事会と支部のコミュニケーション不足を理由に「英文：本部理事会の役割」資料を読み、各支部の認識を深めるよう指示があり、理事会に事務局長が説明。ILSIは公益のための組織であること、企業の利益のために動くのではないこと等。</p> <p>イ) 策定すべき指針 (Mandatory policies) の実行 理事の利益相反関係宣誓書、事務局長の職務記述書、文書保管廃棄指針、旅費精算指針等を日本語に翻訳、日本支部版用に編集し、7月の理事会で確認予定。</p> <p>③ 事務局の強化・効率化</p> <p>ア) 事務局会議の設置；月1回、理事長参加の次長以上の会議 目的；事務局業務の共有と整理、課題・対応についての議論・検討、改善の実施等。</p> <p>イ) イルシー誌合理化検討；課題 事務局長より説明。イルシー誌の課題は以下の通り。 ・あまり価値が高くないと一部では認識されている。 ・各号のテーマが必ずしも明快ではない。 ・（ストックが多く）物理的に事務所の場所を占めている。 対応策としてたたき台は以下の通り。 ○内容の見直し 機関紙に特化し、書下ろしは別出版物に。 ○媒体の変更 紙を電子媒体へ変えネット配信（アクセス権管理がかなり複雑になるが）。 対応策に対して以下のような意見が出た。 ・タイムリーな Newsletter 形式と定期の精選した紙媒体に分ける。 ・広く出す情報と会員の特典をはっきり区分すべき。 ・アクセス権は短期間限定（1年程度）で、それが過ぎたら会員以外にもフリーにする。 ・紙媒体は、会員以外にも贈呈できる便利さがある。 再度整理して、事務局より理事会に提案する。</p>
事務局	<p>3月末日付にて退職者2名、特別顧問 浜野氏、総務担当 池畑氏。サントリーOB 太田氏と業務委嘱契約を締結し、3月1日より業務開始。</p>